

安全に対する過信と認知バイアスとの関連性

○伊藤 優 (島根大学)

鎌田雅史 (就実短期大学)

キーワード：安全に関する統制の所在，認知バイアス，リスクマネジメント

問題と目的

厚生労働省によれば，保育所・幼稚園における重大事故（死亡事故や治療に要する期間が 30 日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故等）の発生件数は，H30 年に 1632 件であったと報告されている。この件数は保育所や幼稚園では，子どもたちの安全に留意した保育・教育が行われている中で生じている。このような保育所・幼稚園の事故について，掛札(2012)は毎日子どもと接し，安全を管理する責任のある保育者の意識と事故との関係の深さを指摘している。保育所・幼稚園の重大事故に関して子どもたちに一番身近な保育者の意識の観点から探ることは，新たな視点からリスクマネジメントを探る契機となると考えられる。そこで本研究は，心的状態を「安全に関する統制の所在 (Safety Locus of Control)」と掛札が指摘する 3 つの要因の関連性について検討する。なお，3 つの要因とは「楽観バイアス (Optimism Bias)」（深刻な事故は減多におこらないので，私の身の周りでは大丈夫だという過信），「帰属の誤り (Fundamental Attribution Error)」（深刻な事故が起こってしまった場合，その原因は当事者の園や保育者にあり，特異的な出来事であるという錯覚），「見守る保育に対する過信 (Too Much Confidence in Supervision)」（具体的な観点で安全を捉えているわけではなく，見守っていれば大丈夫，全ての子どもを常に見守らなければいけないといった，見守る行動に対する過度の信頼）である。

方 法

調査対象者 調査時期は 2018 年 12 月～2019 年 1 月であり，短期大学・大学・専門学校に在籍する学生 1750 名に調査票を配布し，LimeSurvey GmbH が公開するオープンソースシステム上で調査実施することで，636 名（回収率 36.3%）から回答を得た。

調査内容

統制の所在 (11 項目) Mazaheri, idarnia Gofranipour(2012)による SLOC を参考に作成(例. 気をつければほとんどの重大事故は避けられる/実際には避けることができない重大事故がほとんどである)

楽観バイアス (6 項目) 掛札 (2012)，Caponecchia (2010) を参考に作成 (例. 私は多少

危険な行動をしても大丈夫だと思う)。

帰属の誤り (5 項目)・見守る保育に対する過信 掛札 (2012) を参考に作成 (例. ほとんどの重大事故は，保育者やその園が問題を抱えている場合に起こっている，子どもたちを見守ることでほとんどすべての事故は防ぐことができる)

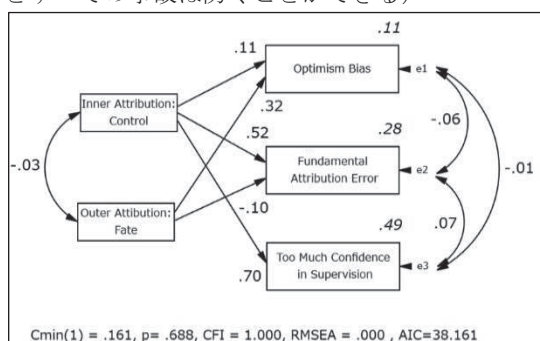


Figure 1 Safety Locus of Control と，事故発生に関連する認知変数との関係

結果と考察

安全に関する内的な帰属は，帰属の誤り ($\beta = .52$, $p < .001$)，見守る保育への過信 ($\beta = .70$, $p < .001$) へ向けた標準化偏回帰係数が有意であった。さらに楽観バイアスとの間にも弱い関係性が認められた ($\beta = .11$, $p < .01$)。

先行研究では，安全に関する内的な帰属は，対処可能性の認知を高め，安全確保に向けた自己制御を促すという，ポジティブな作用が指摘されてきた。しかし場合によっては，「気をつけていれば事故は防ぐことができる」という信念は，「事故が起こったのは，その当事者に問題がある」という帰属傾向を促し，他園の事例から省察的に学ぶ意識を阻害する可能性や，「見守っていれば大丈夫」という過信を引き起こす可能性が示唆される。

一方で，安全に対する外的な帰属傾向は，楽観視と正の関係が認められ ($\beta = .32$, $p < .001$)，「深刻な事故が起こるかどうかが偶然によるところが大きい」という信念と関連する可能性が示された。また，「事故が起こったのは，その当事者に問題があるからだ」という信念とは弱い負の関連が見られた ($\beta = -.10$, $p < .01$)。

付 記

本研究は JSPS 科研費 18K13140 の助成を受けたものです。